

トラブルに負けないメンタルの作り方(向山洋一氏名言集)

- 1 教師が変わり
授業が変わり
子どもが変わるのである。
教師が変わらなければ、
子どもは変わらない。
学級崩壊は解決しない。
(学級崩壊からの生還 向山洋一編著 扶桑社)
- 2 「学級崩壊」の時、教師はつらい。しかし、それを克服すると、教師は成長する。
大切なことを学ぶからだ。
大学では学べなかった本当の教師の資格を手にするのである。
(学級崩壊からの生還 向山洋一編著 扶桑社)
- 3 どんな子どもでも大切にされなければならない、どんな子どもだって成長させなければならない。
(向山洋一年齢別実践記録集第6巻 教育技術研究所)
- 4 何度も失敗し、何度も裏切られ、何度もみじめな思いをし、そしてなお、その中に可能性を見出すことに教育の原点はある。
(教師修業十年 向山洋一著 明治図書)
- 5 教育とは、その時その時の課題を、全力をあげて真剣に取り組むのが大切なのである。
(授業の腕をみがく 向山洋一著 明治図書)
- 6 どれだけ才能のある子どもだって、つまづくことはあります。でも、あきらめてはいけません。
やれば、できる時がくるのですから。
(向山洋一全集52向山実践を貫く教育理念 向山洋一著 明治図書)
- 7 教育の仕事は、もともと時間がかかるわけだから、手品のようにはいかない。
(教師修業十年 向山洋一著 明治図書)
- 8 このような子どもこそ、教師としての私たちの力量を向上させるために、神様が送り込んでくださった宝物なのである。
(法則化小事典シリーズ 向山洋一発・学級づくり 個への対応 QA事典 向山洋一 明治図書)
- 9 時々粹からはみ出るような子どもがいた方がいい。
先生の目を盗んで、いたづらを繰り返して、叱られて舌をペロリと出しているような子どもがいた方がいい。いっぱいいた方がいい。

(向山洋一の学級経営 教師の成長は子供とともに 6年の学級経営 向山洋一著 明治図書)

10 暴力は、彼の自己主張のあらわれであり、生命あるものが生き続けている叫びであると思った。

(教師修業十年 向山洋一著 明治図書)

11 悪人はいないけど、鈍感な人が多すぎる。

(教師修業十年 向山洋一著 明治図書)

12 私は毎日接しているから大丈夫というのは、教師の思い上がりである。毎日接していても、絶対に分からない。私の実感でいえば、日常的なごくあたりまえのことの15パーセントぐらいしか分からないと思う。

(子供を動かす法則 向山洋一著 明治図書)

13 教師は子どもたちの「いのち」を預かっているのである。

いかなるプロにも、これで良いという絶頂点はない。

いかなるすぐれた教師の実践も欠点を持つ。

自分の欠点を自覚できること、これがプロの条件である。

(子どもが燃える授業には法則がある 向山洋一著 明治図書)

14 教師が、成長のための努力を怠った時、子どももまたその成長を止める。

(教師修業十年 向山洋一著 明治図書)

15 教育の結果は何十年後かに出ることが多い。

(5年の授業・5年の学級経営 向山洋一著 明治図書)

16 積極的に解決すべきいくつかの問題点と、待機の問題点に整理することが大切なのである。

(授業の腕をあげる法則 向山洋一著 明治図書)

17 この子のつらさを、いとおしいまでの淋しさを理解するのではなければ、教育はできない。

(授業の腕をあげる法則 向山洋一著 明治図書)

18 担任の方がゆったりと待って、学校は楽しいんだということを教えてあげるといい。

(教育トークライン1993年9月号 教育技術研究所)

19 よく子どもの目の高さで話をするという。

心がまえだけでは、だめなのである。

本当に、子どもの目の高さと同じにならなければいけないのだ。

その時、見え方が異なってくる。

(続・授業の腕をあげる法則 向山洋一著 明治図書)

20 教師にとって具体的なその子しか存在しない。

その子が持っているあらゆる条件を調べ、吟味し、手さぐりに似た姿で教育をおこなっていくしか道はない。

(教師修業十年 向山洋一著 明治図書)

21 裏切られても裏切られても子どもを信じる。

(教師修業十年 向山洋一著 明治図書)